

データで見るヘルメットの重要性

ヘルメット未着用での自転車事故が特に深刻な被害につながってしまうことも多く、大切な従業員の皆さまを守るためにもヘルメット着用促進が必要です。

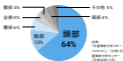
自転車事故での損傷で最も多く、最も死亡に繋がりやすい損傷箇所は**頭部**

転倒時の損傷部位の中で「頭部」が圧倒的多数を占めています。これは転倒の際の路面や縁石での強打、自転車等との衝突で車輪に巻き込まれたり車体や片板で強打することが多いことが原因といわれています。

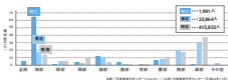
これらによって脳血管骨折や脳挫傷、脳しんとうを起こすケースが多く、死亡に至っています。

「手軽な乗り物」という印象を生みやすい自転車ですが、万一の事故で頭部に損傷を受けると死亡に至る事故に繋がります。

損傷全部位の割合 (2011~2019年の自転車事故1,981件)

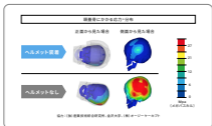
頭部に損傷を負うと**60%超**が死亡に至る重大事故に

自転車事故の損傷部位別/損傷程度による損傷部位 (2011~2019 | 損傷割合 | (1) 損傷部位別損傷結果 | (2) 死亡)

頭部を守る**ヘルメット**の着用が最も大切であると言えます

ヘルメットの着用・非着用時の衝撃比較

「ヘルメット装着の場合」と「ヘルメット未装着の場合」の人体モデルを使った「転倒実験」シミュレーション結果



※この図は、転倒時の衝撃や転倒、接触する地面の硬さなど初期条件に依拠して算出された「損傷の程度を示す力の値」です。シミュレーション結果は転倒にかかる力の値と衝撃の速度を算出しているため、より正確な損傷の程度を示すことができません。

転倒実験の結果、ヘルメットの重要性が浮き彫りとなりました。「ヘルメット装着」の場合には、比較的軽微な冲击力(頭蓋骨にかかる力)が、後頭部を中心とした限られたエリアで作用することにまりました。一方、「ヘルメット未装着」の場合、頭蓋骨骨折を起こすに十分な冲击力が広い範囲にわたって作用していることがわかります。

従業員の皆さまの大切な命を守るためにも
ヘルメット導入を是非ご検討ください